

令和 5 年 2 月 22 日

教 育 長 様

代表者 校 園 名 : 大阪市立今市中学校

校 園 長 名 : 赤坂寛臣

電 話 : 06-6952-0371

事務職員名 : 糀谷龍太

申請者 校 園 名 : 大阪市立今市中学校

職 名 ・ 名 前 : 教諭 松井政英

電 話 : 06-6952-0371

研究コース	
S 研究テーマ指定 (D)	
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)	
682513	
選定番号	307

令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 4 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	S 研究テーマ指定 (D)	研究年数	継続研究 (3 年目)
2	研究テーマ	<p align="center">学力向上に資するカリキュラムマネジメントの研究 ～教科横断的視点を活かした今市カリキュラムの構築～</p>			
3	研究目的	<ul style="list-style-type: none"> ○教科横断的視点を活かした教育実践 ○リーディングスキルに関する研修の実施 ○今市カリキュラムの構築による「学び続ける教員・生徒」の育成 ○学力向上のための各教科における「主体的・対話的で深い学び」を促す授業研究 ○授業研究による研究員の授業力向上 ○先進的研究校への研修会参加を通じた指導力の向上 ○研究成果の発信、他校教員の授業力向上への支援 ○「総合的読解力の育成」における知見の拡大ならびに実践 			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSコシッパ 9.5ポイント)</p> <p>1、本市教育振興基本計画の基本的な方向 4【誰一人取り残さない学力の向上】の施策・内容、(「特に重点的に取り組むもの」)「言語活動・理数教育の充実」・「総合的読解力の育成」の実現を目指し、以下の取り組みを実施した。</p> <p>(1)学力向上を旨とした、「総合的読解力の育成」に資する指導法充実のため、リーディングスキルテストを 11 月に受検させ、子どもたちの言語能力、読解力を科学的に分析した。(1 年生は今後 3 年間を見通した分析のため、2 年生は昨年度との比較を踏まえた定点分析のため、3 年生は 1 年生からの経年比較のために受検。)</p> <p>(2)国語科が先行しつつも、教科横断的視点から他教科も加えて、リーディングスキルテスト、及び新聞教材等を活用した授業実践や研究を行った。 (10 月に理科・国語・数学、12 月に社会の研究授業を実施)</p> <p>(3)リーディングスキルに関わる研究を全教科で行うとともに、各種テストでリーディングスキル問題を開発し、生徒の状況に応じて指導法や評価法の改善を含む PDCA サイクルを構築した。 (12 月に教育センターより分析、指導助言)</p> <p>(4)学力向上委員会での検証を踏まえ研究発表会で成果を発信した。(12 月 12 日に研究実践報告会を実施)</p> <p>2、今市中学校独自の「今市カリキュラム」の研究</p> <p>(1)各教科固有の学びを前提にしつつ、どの教科でも読解力向上のための指導場面を創出することで、統一した意識の下、指導するスタイルの確立を図った。(8 月に取り組みに関する知見、手法の共有、及びお願い)</p> <p>(2)図書館利用、放課後学習会の活性化(タブレット設置による自主学習環境の整備、地域人材の活用、開かれた図書館づくり)を推進した。</p>			

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日程	令和 4 年 12 月 12 日	参加者数	約 35 名
		場所	大阪市立今市中学校多目的室		
	備考				
6	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 教科横断的観点に基づく授業実践を通して、子ども一人ひとりの読解力の向上を図る。</p> <p>《検証方法》 リーディングスキルテストを実施し、2年生、3年生における経年比較において、それぞれの学年の能力値の平均が昨年よりも0.05ポイントを上回る。また、1年生においては、能力値の平均で0を上回る。（能力値：中学生の平均能力値を0としたもの）</p> <p>〔検証結果と考察〕 2年生においては、すべての項目で昨年度を上回る結果となった。また、0.05ポイントを上回ったのは、7項目中6項目であった。 3年生においては、7項目中の5項目で昨年度を上回った。また、0.05ポイントを上回ったのは5項目であった。 1年生においては、7項目中、5項目で0（0が平均能力値）を上回った。 各項目において概ね向上が見られたが、いくつかの項目において目標を下回る結果があった。 リーディングリストで読解力が可視化されたので、分析し、今後の取り組みに生かしたい。</p> <p>【見込まれる成果2】 リーガル・リテラシー（法識字）の取り組みの充実を通して、子ども一人ひとりの識字能力及び、法的なものの見方、考え方を向上させ、総合的読解力の向上を図る。</p> <p>《検証方法》 生徒アンケートを実施し、「リーガルリテラシーの取り組みを通して、法律やことばの意味するところについて考えを深めることができた。」の項目で肯定的回答を8割以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 上記アンケート項目において、肯定的回答は78.7パーセントであった。抽象的な法律文と具体的な事柄との整合性を考える授業を行う中で、文章をより正確に読み取る力を育成することができた。</p> <p>【見込まれる成果3】 読解力向上を旨として教科間で連携し、教科横断的に取り組む体制を確立させ、地域人材を有効に活用することを通して、学力の向上を図る。</p> <p>《検証方法》 指導者アンケートを実施することにより、「他教科との連携を意識し授業を展開することができた」の項目、および「多様な教育活動が総合的な学力向上に貢献したと考える」の項目で肯定的回答を9割以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 上記アンケート項目において、「他教科との連携を意識し授業を展開することができた」の肯定的回答が80パーセント、また、「多様な教育活動が総合的な学力向上に貢献したと考える」では肯定的回答が100パーセントであった。総合的読解力育成カリキュラムの実施や、リーディングスキルテストの受験等を通して、教科間の連携や、多様な教育活動を実現することができたと考える。</p>			

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】 研究発表会参加者の満足度を高め、本校における研究の成果を広く周知し、本市教育の充実に貢献する。</p> <p>《検証方法》 参加者アンケートを実施することにより、「本研修が所属校園の教育活動に貢献した」の項目で肯定的な回答を9割以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 上記アンケート項目の肯定的回答は100パーセントであった。3年間の本研究のまとめといえる研究発表会だったこともあり、高い満足度につながったと考える。</p>
		<p>【見込まれる成果5】 各種研修会・校内授業研究会を複数回実施し、本校所属教員の授業力向上を図る。</p> <p>《検証方法》 参加者アンケートを実施することにより、「本研修が教科指導力向上に貢献した」の項目で肯定的な回答を9割以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 上記アンケート項目の肯定的回答は94パーセントであった。本研究は教科横断的の視点をもってとらえるテーマだったことや、各教科で活用できる知見や手法の共有を行ったことが、各教科指導力の向上の貢献につながったと考える。</p>
		<p>【研究全体を通じた成果と課題】 具体的に記載してください。 本校におけるカリキュラムマネジメントについて、昨年度までは、外部リソースの活用という点では十分ではなかった。今年度は、その課題に着手し、「リーガルリテラシー育成」の取り組みにおいて司法書士と連携をしたほか、教育センターと連携をし、言語能力育成を目指した授業の指導助言を幾度も賜るなど、効果的に外部リソースを活用して、本取り組みを一層充実させることができた。 読解力向上の取り組みについては昨年度に比べ、数値的にも改善し、学校全体としても前進できていると考えるが、未だ課題も多い。 全体として、リーディングスキルテストの数値が上昇した一方で、1学期末の生徒アンケート（全学年）では、「教科書の文やプリントの問題文の意味がわかりにくいと感じる。」の項目で約30%の生徒が、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答していることから、「教科書を自分の力で読む」、「問題文の意図するところを理解する」というところで、つまずきを感じている生徒が少なくないことがわかる。これらの課題の解決のために、授業スタイルや言語能力育成の知見、手法について一層充実させ、それらを校内で周知、共有し、各教科の具体的な取り組みにつなげてきたい。</p> <p>《代表校園長の総評》 3年目を迎える本研究では、これまでの集大成として、多くの成果が見られた。リーディングスキルテストにおいては、全学年で実施することによって、生徒たちに「しっかりと文章を読むことの重要性」の意識を持たせることにつながった。また、他機関と連携をして、読解力を科学的に分析することによって、より具体的な授業改善の提案を行うことができ、それらの成果として、各学年における読解力の数値の向上が見られた。さらに、各教科の取り組みのみならず、「総合的読解力育成カリキュラム」の先行実践では、教科横断的の視点を持った読解力育成についての知見を深めるなど、本校における読解力育成の取り組みには、ますます機運の高まりが見られる。令和6年度からは大阪市内で「総合的読解力育成カリキュラム」が実施されるが、本研究はその潮流に先行するものであり、本市の教育活動に貢献できるものであると確信している。</p>